

三井物産環境基金 2012年度上半期 活動助成（一般助成） 助成案件一覧

分野	団体名	代表者	案件名	案件概要	助成期間	申請金額 (千円)
表土森林	特定非営利活動法人 フォレストぐんま21	理事長 菊川 熙英	水源県における5つのアクションプラン	群馬の森林の大半は自然の力と人間の力とが共同して作り出してきたが、社会情勢の変化で森林の守り手、育て手が少なくなっている。その結果、森林の持つ多面的機能が減少しており、やがて自然崩壊につながるかもしれない状況にある。本活動では、5つのアクションプランを活動方針とし、森林の力が十分に発揮できる理想の森づくりを行っていく。活動範囲は県内一円をフィールドと考え、自治体や学校からの要請により当団体の会員が直接作業に携わっていく。多くの人達が群馬の森の役割・緑のダムとしての利根川に関心を寄せる事に繋がるよう、理想の森づくりを行い、次世代に引き継いでいく。	3年	¥5,029
表土森林	Japanese Association of Northeast Ohio (JANO)	会長 橋本福雄	Japanese Cherry Tree Plantation in City Parks of Northeast Ohio ノースイーストオハイオの公立公園内への日本のさくら植樹	ノースイーストオハイオ日本人会 (JANO)は、1996年よりクリーブランド市のメトロパークスに桜の植樹を続けている。ソメイヨシノの植樹は、地域に貢献し当会会員間の交流を深めるというJANOのミッション精神に従うものであり、JANOの主な活動のうちの一つである。本活動により、クリーブランド市やアクロン市、株式会社三井物産クリーブランド支店や在デトロイト総領事館といった他組織団体と協働し、地域社会が公共の環境を向上させ温暖化問題や省エネ、環境維持の重要性を促していくことを手助けしていく。	3年	¥2,490
エネルギー	特定非営利活動法人 環境21の会	理事長 渡邊 雄一	太陽エネルギーの活用の研究と学習する「まちの寺子屋」の創設	淡路島に自然エネルギーの学習用機材・設備(太陽光、風力を利用した独立発電設備とフレネル型型焦熱炉)を備えた、「まちの寺子屋」を創設する。この寺小屋では不登校など社会になじめない子ども達が通う塾と協働して、生徒達に体験型環境理科学習を行い、彼らの社会復帰を支援する。同時に一般市民の子ども達とその保護者にも自然エネルギー問題について啓発活動を行う。	3年	¥1,935
水資源	特定非営利活動法人 印旛野菜いかだの会	理事長 美島 康男	印旛沼絶滅危惧種水草再生と体験環境学習	印旛沼は、流域の都市化や経済社会活動によって、生活排水、農業排水による水質の悪化が急速に進行し、水生生物は絶滅の危機に立たされている。沼内では絶滅した水草(沈水性・浮葉性)を環境に優しい浮島方式の人工浅瀬再現の「水草再生いかだ」を使って、絶滅危惧種水草の再生を目指し、全ての流域市民に対して、水辺に親しめる清らかな水環境を取り戻すための事業を行い、生物多様性及び生態系の保全を進めて行く。	3年	¥2,580
生物多様性	BirdLife South Africa	Chief Executive Officer Mr. Mark Anderson	South Africa Important Bird Areas Programme: Revision of IBA Network and Directory 南アフリカ・重要野鳥生息地プログラム: IBAネットワークと目録の改定	地球の鳥類個体数は減少しており、南アフリカの鳥類の15%以上が絶滅の危機に瀕しており、その主な原因は生息地の劣化とされる。南アフリカでは、IBA(重要野鳥生息地)は124カ所あり、バードライフ・南アフリカ(BLSA)がすべてのIBAの保全に当たっている。BLSAは、草の根から国家レベルまで社会ネットワークを構築し、IBAプログラムが継続してデータを収集し、現場レベルで保全活動が導入されるよう政策決定者へデータを提供している。更新されたIBAプログラムは、鳥類の絶滅の危機生息地を選定し、これらの地区をモニターし、地元の生息地サポートグループ(ボランティア)を通じて生息地の保全を行っている。IBAは、保全区に対する脅威の軽減、ならびに長期的な保全規制を確保する保全対策の推進を実施し、適切なIBAプログラムの実施により、人口の過剰増加、貧困、気候変動等の下での南アフリカの鳥類の保護を推進する。	2年	¥15,000

分野	団体名	代表者	案件名	案件概要	助成期間	申請金額(千円)
生物多様性	公益財団法人日本鳥類保護連盟	代表理事 矢島 稔	アジア・オセアニア地域におけるコアジサシの渡りルートの解明及び保全のための啓発	渡り鳥であるコアジサシは、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類とされ、二国間渡り鳥条約に基づき国際希少野生動物種にも指定されている。不安定な繁殖成功率のために存続が危惧されているのに加え、保全には不可欠である渡りルートも特定されていない。本活動では日豪間で協力してアジア・オセアニア地域の渡りルートを特定し、過去の営巣地、渡り前の集結地情報と合わせて保全上重要なエリアを示し、国際的に保全を呼びかける。	3年	¥10,850
生物多様性	特定非営利活動法人新潟水辺の会	代表理事 大熊 孝	水枯れの信濃川・千曲川に鮭の道を拓く	信濃川・千曲川は、ダムによる遮断と環境を無視した大量の取水によって、海と山をつなぐ生き物の自然循環が断ち切られた。鮭は海と山をつなぐ自然循環の象徴的な生き物であり、当会では、自然循環を再生してゆく象徴として、鮭の道の復活をめざし、稚魚の放流活動を続けてきた。本活動では、今後、鮭の稚魚放流数を減らし、自然孵化による回帰の定着をめざした調査と実践を進め、ダムの魚道の改善提案や遡上情報の把握と発信に努める。また、上流下流の学童の環境教育と体験交流を進め、長野県内に活動の持続を担う団体の確立を図る。また自立して活動を続けてゆけるために「鮭の道サポーター基金」の構築を図り、長野・新潟両県および首都圏の人々への広報活動を強化して、理解と協力の獲得に努めていく。	3年	¥7,600
生物多様性	特定非営利活動法人美ら海振興会	代表理事・会長 松井 さとし	沖縄ケラマ諸島チービシエリアのサンゴ礁再生プロジェクト	この活動は、水温上昇によるサンゴの白化現象やオニヒトデの異常繁殖などによって減少したサンゴの早期再生を目指すために、オニヒトデとレイシガイの駆除をするものである。今までは、サンゴの外敵オニヒトデは水中でハンマーによる粉碎処理を行っていたが、現在は怪我を回避する為オニヒトデに酢酸を注射器で注入する方法に切り替えて実施しており、この方法によって、オニヒトデとレイシガイを駆除を推進し、サンゴの再生を目指す。	3年	¥4,761
生物多様性	特定非営利活動法人つくば環境フォーラム	代表理事 田中 ひとみ	人と自然と地域を結ぶ「オオムラサキの森」づくりプロジェクト	つくばエクスプレス沿線開発によって里山環境を失う危機感から始まったオオムラサキのレスキューとボランティアによる保健保安林の再生は一定の効果があったが、開発後も残る大規模緑地のビジョンについては、現在も定かではない。この緑地を含む里山環境の昔と今を調査し、地域の人々と里山の将来像を共有するための活動を開始する。オオムラサキが指標となる豊かな自然とともにある暮らしの魅力を提示することで里山保全の継続性を図る。	3年	¥4,416
持続可能社会	一般社団法人海士町観光協会	会長 中村 等光	持続可能な観光モデル「島旅」ブランド構築事業	日本の離島は「ひと」がその豊かな自然や歴史文化などの地域資源を活かそうとする「島の営み」によって原風景を守ってきた。海士町においては、島を守るためのあらゆる「営み」がひとを惹きつけ多くの移住者がこの島に移住している。本事業では、地域資源そのものではなく、その資源を活かそうとする「島の営み」そのものを最大の観光資源として活かし、経済効果を生むことで持続可能な観光モデル「島旅」ブランドの構築を目指す。	2年	¥10,000
持続可能社会	特定非営利活動法人環境文明21	共同代表 藤村 コノエ	「環境NPOのエンパワメント戦略2020」の策定	持続可能な社会構築に向け非政府組織強化を促した地球サミットから20年が経つが、日本では未だ環境NPOが社会の一翼を十分担うに至っていない。環境等の危機が進む中でその役割は高まると思われる一方、実際は役割を担いきれていない要因を環境NPO内部の問題と環境NPOに対する社会認識等外部要因から体系的に整理・分析し、具体的解決策を含む環境NPOエンパワメント戦略を提案し、他の環境NPOと共有するとともに、社会に訴えていく。	2年	¥8,750

分野	団体名	代表者	案件名	案件概要	助成期間	申請金額 (千円)
持続可能社会	特定非営利活動法人 シーズ・市民活動を支 える制度をつくる会	代表理事 永田 賢介	環境NPOへの認定 NPO法人化推進事 業	環境NPOの認定NPO法人化の推進と寄付者・支援者 拡大を応援するツールを開発する。認定NPO法人の要 件が大幅緩和され、認定NPO法人になれるようになっ たが、必要な人数分の寄付を集められない、寄付者名 簿が完備されていないなどの障害により認定化が進ん でいない。簡易なITツールを開発・提供することで、要 件チェックや提出書類作成を容易にし、認定申請の ハードルを下げ、団体の継続、支援者拡大につなげ る。	1年	¥4,800
持続可能社会	特定非営利活動法人 集住グリーンネットワ ーク	理事長 松岡 二三夫	根川緑道桜守	立川市の南部にある根川緑道では、緑道の整備前か ら保全されてきた桜並木が小川沿いに存在するが、こ れらのサクラの樹勢が衰退してきている。本活動は、こ れらのサクラの保全計画の策定、保全活動等を通し て、活動に主体的に取り組む市民団体を育成するもの である。具体的には、市民による主体的活動を促進す るためにグリーンワークショップという手法を用いる。こ れは緑と交流に関するプログラムを参加者に提供し、 参加者の活動への意識を向上させ、最終的には市民 自らが企画、立案するように働きかける方法であり、参 加と体験、協働を重視する。サクラの保全計画を完成 させるとともに、コミュニティの形成も期待される。	3年	¥1,328
持続可能社会	一般財団法人 アライアンス・フォーラ ム財団	代表理事 原 丈人	大学生による、マイ クロファイナンスコー スへの参加と、「マイ クロファイナンスを通 して見る、これから の発展途上国と日 本」(仮)シンポジウ ムの開催	当会はグローバル人材育成の促進に取り組んでおり、 日本と発展途上国の橋渡しをミッションに活動を実施し ている。2009年より実施しているバングラデシュでのマ イクロファイナンスコースは、発展途上国の金融や、低 所得者層の生活の特徴について体系的且つ実践的に 学べる内容となっており、今後、より多くの日本の若者 の参加を促し、更にその経験を地域社会に広めるため に、大学生8名(年間)を本コースに招聘し、人材育成を 促進する。	1年	¥800

合 計： 14件

80,339千円